

Apr. 30
2000

宮城県壮年テニス連盟

会報 第 29 号



* * * ご挨拶 *

委員長 中村 克宏

私はいつも馬鹿なことをしたり言ったりしているものですから、還暦過ぎたくらいの若者と思われる方が多いようですが、本年5月で70歳になります。やっと壮年のお仲間になったかなというところです。

ところが、当連盟の委員の中では伊藤前委員長がおやめになつたおかげで私が最年長委員になつてしましました。私はもともと病理解剖と生研（臨床医が患者さんから取った材料を顕微鏡で見て診断をつける）とを仕事にしていた関係上、生きている人間との付き合いが少なく、まあ、解剖の前には患者さんに頭を下げるから始めますがあまり深々と頭を下げることはいたしません。腰をおるようなことはまずありません。このせいか、頭が高いとは自分では思ってはおりませんが、腰が高いのはテニスによく生かされていて、「ほら、また腰が立ったまま打っている」と、周りからよく注意されます。今年はせっかくの機会ですので腰を低くすることを努力目標のひとつにしようかなと思っています。

今年で当連盟は創立15年となります。委員のかたがたにご相談頂き、企画立案を急がなくてはなりませんが、会員各位からも是非ご意見をお寄せ下さい。

その他、今年は都市対抗全国大会、来年は国体が宮城県（仙台市）で開催されることは皆様ご承知の通りです。これに向けての準備、当日の運営の参加、協力が予定されている中で、これに關係されておられる当連盟会員も多数おいでになります。当然、その他の方々もどういう形にしろ、協力される機会が多いと思われます。このようなわけで今年は多難ではないにしても多事であることは違いはありません。

会員皆様の更なるご協力を願いしたいと思います。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

――――曰次――――

♪ 委員長挨拶	委員長 中村 克宏	1
♪ 運営委員業務分担		1
♪ 壮年のパワーを生かそう	和田 忠彦	2
♪ 競技会担当を拝命して	佐々木宏昭	2
♪ シエルコム・せんだい（仙台ドーム）		2
♪ 会員年齢構成		4
♪ JTA NEWS の中から		6
♪ 「国体」あれこれ		7
♪ 平成12年度連盟行事		8

pp
※
※
※
※
※
※
※
※
※
※
※
※
※
※
※
※
※

平成12年度宮城県壮年テニス連盟 ＊運営委員業務分担＊

委員長および委員の移動にともないまして運営委員の担当業務が次のように決まりました。行事等の実施計画や内容につきまして多くの会員さんからのご提案、ご意見をお待ちしております。
委員長 : 中村 克宏
副委員長 : 山内 宏 (5月) 首藤 紀子 (5月)
庶務部会 部会長 : 山内 宏 (5月)
庶務 : 鶴田 園子(主任) 北野 妙子
会計 : 首藤 紀子(主任) 佐々木つや子
広報 : 酒井 倭子(主任) 梁田 満寿子
担当幹事 : 高橋 龍夫(事務局)

事業部会 部会長：菅野 義治

競技会 : 佐々木宏昭(主任) 和田 忠彦

(協力: 長田 邦夫会員)

WEEKDAY交歓会 : 菅野 義治(主任) 佐々木つや子

渋谷 妙子 嶋田 園子

八重樫トモ 目黒 裕子

北野 妙子 梁田 満寿子

武田 義子

シルバー関連: 山内 宏(主任) 和田 忠彦

酒井 優子 武田 義子

対外交流: 山内 宏(主任) 菅野 義治

和田 忠彦 八重樫トモ

担当幹事: 大賀 延行

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

* 壮年のパワーを生かそう *

和田 忠彦

「年輪のパワーを生かす 新時代」昨年のねんりんピック福井大会のテーマです。全国都道府県・政令都市から集まった壮年選手団のあの熱気溢れるパワーは、この大会テーマをさらに盛り上げ、実現可能の確信と新たな希望や意欲を与えてくれました。

あの感動の日から早半年の歳月が過ぎた今、改めて、自分のテニスライフとその周辺を見詰めています。

私の住む利府町も、利府テニス協会を中心に、協会加盟のクラブを始め、任意のグループが、テニスに関して様々なニーズを持ちながら増えてきています。我が壮年テニス連盟加入の利府会員もそれらのグループに所属し、それぞれの活動をしているのですが、ある一つのグループが出来たことに注目しています。つくられた経緯は存じませんが、その顔ぶれを見ると、偶然なのか、連盟主催のウィークデイテニス交歓会に顔を出す方が大半を占めているのです。今のところ、毎週水曜日、3~4時間、内1時間は、真剣に自主的ドリルに取り組んでいます。お誘いを受けて、3月に入ってから仲間に入れていただきましたが、皆さんが私に期待をしているものを感じ、ドリルのお手伝いとして、拂い球出し役をやってきました。

昨年は、利府のコートにも、ねんりんピックや東北マスターズ大会が縁となり、仙台、石巻、名取、盛岡等の壮年テニスプレーヤーの方々がおいで下さり、ささやかですが、一日地元プレーヤーとテニスを楽しんでいただき、交流を深める機会もありました。一昨年の「ねんりんピック座談会」(会報26号)で、県壮年テニス連盟は、その名称の通り、全県的な活動

を目指していく必要があるということが話題となりましたが、昨年8月、早速、関係者のご手配お骨折りがあって、仙台市と石巻市の壮年テニスプレーヤーの交流テニス大会が、石巻市の石巻ローンテニスクラブで開催されるなど、組織的な取り組みがいただけたことは、喜ばしいかぎりです。

その後、石巻市を中心、県北に壮年テニス連盟の支部結成の動きなどあるやに、もれうかがいましたが、県北地方の壮年パワーを結集して、実現出来るよう心からご期待申し上げる次第です。

昨年10月、仙台市勤労者体育館主催のテニス教室に参加する機会があり、その際感じたことです。受講者50名程度の内、50~60歳代の方々が約20%おられました。その方々の受講態度、レッスンへ立ち向かう真摯な姿勢に感銘を受けるとともに、高校生や青年、成年層を交えたレッスンの中でも、彼らの向上心や意欲が極めて旺盛であり、若い世代の方々に対して大きな刺激を与えていました。私は、同世代の一人として誇らしさすら覚えた次第です。教室閉講の折り、その方々へ、活動の場をもっと広げる場として、県壮年テニス連盟の活動を紹介させていただきました。

この3月初旬ウイークデイに、町営コートに壮年のメンバーが練習していた時です。同年配であろう一人の男性が、普段着のままコート脇で熱心に我々の練習を見ているのに気づきました。私は、気さくに声かけをしました。やはりテニスがやりたくてみえられたのです。車の中にラケットを始めウェア、シューズを用意しておられました。ご一緒にとお説いすると喜ばれ、早速仲間になっていました。お聞きするところによれば、退職され、東京の方から隣町の松島町にお住まいになられたとのこと、テニス歴も20数年等など・・・。

長い間テニスをしていると、「この人、テニスをしたいのだな」と直感的に分かるものだと、我ながら感心します。テニスを愛する者同志なら、コートに来たら何時でも誰でも仲間として受け入れてあげられるといった雰囲気づくりも大切なことではないでしょうか。

テニスを楽しむ仲間でも、それぞれが持っているニーズは多様です。しかし、注意して見ると、小グループは、共通のニーズを持つ個々の集まりで形成されているようです。この範囲であれば、小回りのきく個人として役に立つことも可能でしょうが、ニーズは常に変化し発展し多様化します。協会とか連盟

という組織が、会員個々のニーズを掘り起こし、これに応える機能を充実出来れば、自然組織は活性化されると思うのですが、いかがなものでしょうか。しかし、組織に所属する個々人が、組織（協会、連盟、クラブ、グループ等）が個々のニーズに応えて機能するよう、積極的に働きかけることも又、忘れてはいけないことだと考えます。

当面、私は、テニスを愛する仲間と共に、誰でもが何時でも楽しくテニスが出来る、雰囲気、環境づくりに努めるつもりです。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

* 競技会担当を拝命して *

佐々木 宏昭

1. 自己紹介

競技会担当を命ぜられました佐々木でございます。当年55歳（気持ちは20歳）、テニスを始めましたが37歳（遅い目覚め）自己流のまま、現在入会5年目に至っております。どうぞ宜しくご指導賜りますようお願いいたします。

2. 壮年テニス連盟への入会の動機

将来にわたり楽しいテニスを継続するためには、皆様の輪の中に積極的に入って行って、幅広く友達を作らなければと考え入会させて頂きました。ところが、諸先輩の皆様方が、夏の暑さや、冬の寒さにも負けずに喜々として活躍されている様子を見聞きし、自分のテニスに取り組む姿勢が恥ずかしくなりました。

3. これまでに感じた事項

会員個々のがニーズを考慮し、細目濃やかに各行事を計画、運営されていること。（四大大会、WEEKDAY交歓会、シルバー関連、対外交流会等）

ハンディキャップ制を導入しての競技会の運営により、偏りのない公正公平の追求。

4. 今後の目標

テニスを通じて仲間を広め、共に生き生き人生を謳歌出来ればと思います。これまで先輩諸氏が常々と築きあげてこられた伝統を次代の方々に着実に伝承するよう努力する覚悟でございます。先ずは、会員の皆様の積極的な参加と、力強いご指導を賜りながら、活気に富んだ競技会の運営を目指したいと思いますので宜しくご協力下さいますようお願い致します。

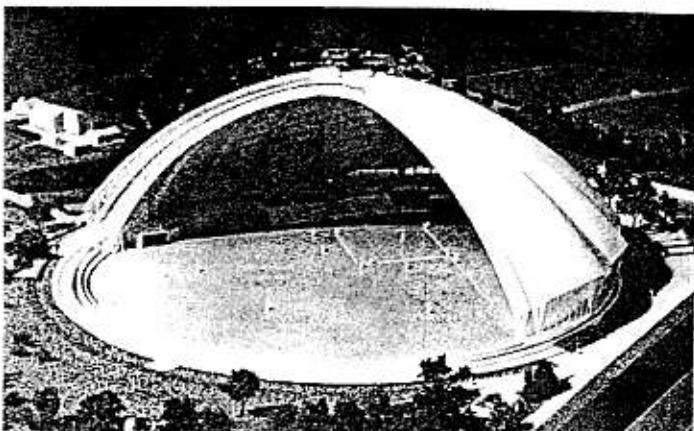
※※※※※※※※※※※※※※※※※※

★ シェルコムせんだい ★ (仙台ドーム)

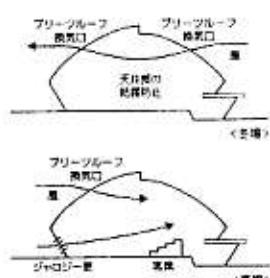
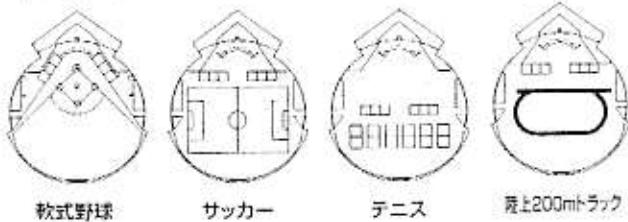
泉総合運動場テニスコートの西方に白い大きな貝殻を伏せた形の構造物ができあがったのをご存じの方もおおいと思います。公的施設としての建設賛否論が新聞紙上等でかなり大きく取り上げられておりましたのでその特異な姿以上に有名になっているかもしれません。仙台ドームという仮の名前で呼ばっていましたが、貝殻（シェル shell）の形をしたコミュニティセンター（community center）ということで、シェルコムと名付けられたようです。

当施設は、競技スポーツだけではなく、遊んだり、会話を楽しんだり、様々な形で利用出来るコミュニティスポーツパークであること。屋根と壁とが一体になり、建物全体が南方に大きく開く構造であること。特殊な換気口を設けることにより屋根閉じ状態でも有効な排気、排熱が出来ること。屋根にフッ素樹脂コーティングのガラス繊維膜が使われているので自然光を利用して、日中は人工照明なしでも十分な明るさが得られること。とうとうの優れた特徴をもっているようです。さらに、私たちテニス愛好者にとってうれしいことは、2001年開催の国体テニス会場としての使用が決まったことにより、テニスのためのコートラインが6面分常時引かれている状態にあることです。

また、テニスの公式戦に使用出来るための、バックネットや防眩ネット、審判台やスコアボードの用意がなされます。さらに移動観客席の設置による大規模大会の開催の可能性もあります。先日行われました日本テニス協会のテニス会場施設視察でも、「ディビスカップ開催会場」としても可能性がある、とのお話しがありました。この施設は多目的利用への配慮として、下図のように多種のスポーツに対応出来る工夫がなされています。



◆多目的利用への配慮



砂入り人工芝の芝長が若干長く、さらに、底部には衝撃吸収のための10m/mのゴムクッションが敷かれており、泉の外部の通常コートに比べてわずかではありますがソフトな感触があります。しかし、ベテランテニスプレーヤーには足に優しくかえって好都合であるとも考えられます。

本年5月に完成の予定ですが、テニスコートとしての利用料金、他のスポーツ競技との兼ね合いによる利用可能日時等、気になる事柄が沢山あります。気軽に、手頃な料金で利用出来る条件が揃って、はじめて素晴らしい施設ということになるのではないかでしょうか。私が予てから要望し続けてまいりました公営の室内テニスコートが、テニス専用ではないにしても、漸く実現のはこびとなりました。宮城県の冬の厳しい自然条件の中でのテニスを考えますと、専用の室内テニスコートの必要性は誰もが認めるところです。しかし、昨今の社会情勢からして、多くの観客席を有し、立派な付帯設備を持つ「#ト」アリーナ形式の室内テニスコートは望むすべもありません。「テニスがオールシーズン楽しめさえすればよい」ことだけに注目して、建設費のかからないコートが出来ないものでしょうか。雨や雪が降ってもテニスが出来るためには屋根(カバー)があればよろしい。日中は自然光を有効に生かすような工夫(テフロン幕や樹脂製の素材の利用)をしましょう。周りは、少し厚めの防風ネット(それらを支えるポール等が少し大きくなるでしょう)があれば、冬の冷たい風でも気になりません。それに加えて、蔵王風や泉風を防ぐ目的も兼ねて、北西面にトイレと更衣室を作りましょう。建設地は、昨今、新聞紙上をにぎわしている市や県所有の沢山な無用地の一部を利用しましょう。そして、日中は仕事

でテニスが出来ない市民のために照明設備をつけて夜間の利用も出来るような利用態勢をつくってもらいましょう。世界の人々がびっくりするような立派なスポーツ施設(サッカー場やプール)造りも結構ですが、利用頻度や利用者数から考えますと、「もったいないなぁ」というのが、皆さんの正直な感想ではないでしょうか。

当連盟の会員諸氏のなかには、建築関連のお仕事をなさっている方や、かって、その業界におられた方が多々おいでです。壮年テニス連盟式の廉価でテニスが楽しめる「オールシーズンコート」の設計図を作成し、当局に提案するというのはいかがですか。連盟創立15周年事業の一環にしては如何なものでしょうか。新内閣も発足し、有珠山にも新しい熔岩ドームが出来そうです。春の訪れとともに連盟の内部にも何かしら新しい動きがあつてもよろしいのでは。

「シェルコム・せんだい」完成にともない、その内容をご紹介しました。利用料金等が手頃な物であれば、今まで、冬眠状態であった連盟の冬期間も、楽しくテニスが出来そうです。この会報でお知らせいたしております、年間行事予定表に新しく「シェルコム・行事」が書き加えられるようになることを期待したいものです。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

＊「会員年齢構成」を考える 事務局

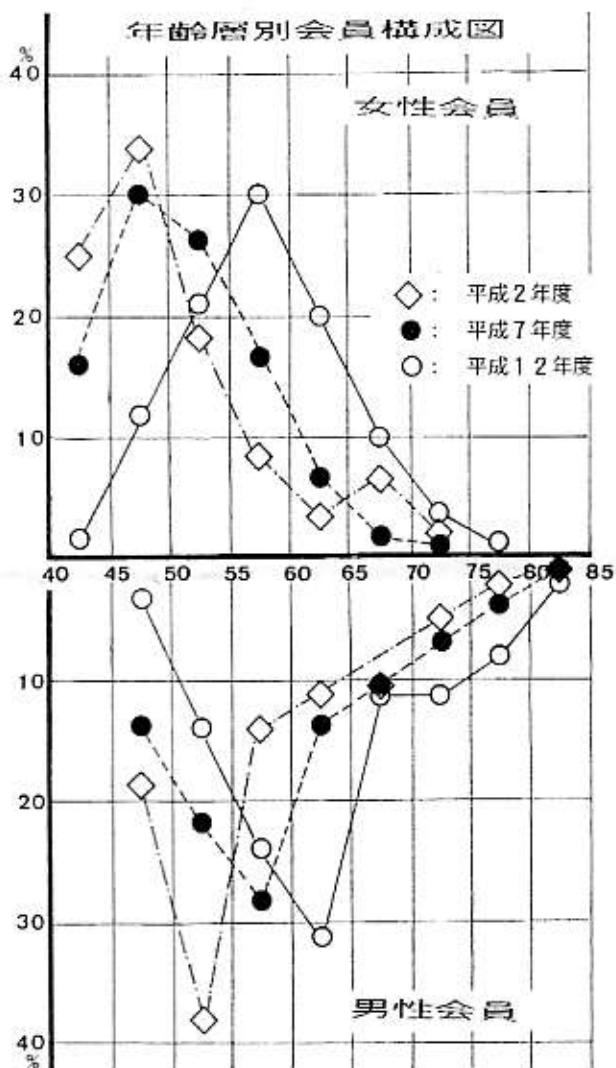
年齢別会員構成をグラフ化してみました。男性会員は45歳から85歳まで、女性会員は40歳から80歳までをそれぞれ5歳間隔で分類したものです。

このグラフでは現在と平成2年および平成7年の会員構成とを比較し、この10年間で年齢構成がどのように変化しているかが示されています。

平成2年においては、男性会員は45歳から55歳域で全体の57%を占めていましたが、平成7年では36%、平成12年で10%に減少しております。55歳から65歳域が26%からそれぞれ、42%、55%へと逆に増加しております。女性会員においてもこの傾向が同じように見られ、平成2年において、40歳から50歳域で59%であったものが、平成7年では46%、平成12年では14%へと激減しています。50歳から60歳域が29%からそれぞれ43%、および63%と増加しております。

会員実数の変化は300名を軸としてほぼ横ばい状態ですので、男女両会員ともに会員全体が十年間にそ

れぞれ10歳だけ歳をとり、若い会員の入会が少なかっ



しく入会された会員の多くが、男性で55歳以上、女性では50歳以上の方々であったということが考えられます。創立以来からおいでになる会員全体が10年歳をとったという単純なことではないようです。一般にテニスプレーヤーの平均年齢が高くなつたとは考えにくいので、当連盟の諸行事や会の在り方に對する賛同者の年齢が連盟発足当初に比べて高くなつてきたと考えるべきなのでしょうか。あるいはもう少し別の理由があるのでしょうか。

県テニス協会が開催しております年齢別の公式戦参加者を見てみると、男性では(何故か女性における40歳以上の年齢別種目には参加申し込み者数が規定数に達しないため大会が行われた実績はありません。ただし、都市対抗に女子ベテラン種目が加わることになっておりますので若干様子が変わるものと予想されます)45歳以上の単複とともに参加者の著しい増加がみられ、55歳以上の単複にも多くの参加者が見られます。当連盟会員も多数参加しておられます。ただ、残念なことに60歳以上、65歳以上、70歳以上の種目における参加者は非常に少なく、大会が開催されても規定数に達しない為に実施されない種目もあるやに伺っております。ベテランの公式戦参加者数からは、比較的若い年齢層における競技性趣向の強さが伺えますが単純には結論を出せない事柄のようです。

東北マスターズテニス交流大会や日本シニヤ連盟のテニス大会、仙台市が開催するねんりんピック選手選考会を兼ねた高齢者テニス大会等等、ひと昔前に比べますと高齢者が参加出来る大会が数多くなってきておりますので、どの大会に出場するかの選択を余儀なくされていることも事実のようです。

テニスの技量があがってくるに従いまして、単純にテニスを楽しむ「娯楽テニス指向」から脱皮して次第に「競技テニス指向」になって行くのでしょうか。当連盟会員の年齢構成の変化が何を語っているのかを模索し、連盟の在り方、行くべき道筋を考える時かも知れません。

しかし、このように変貌する会員構成のなかで、男性会員では、

岩月賢一(T021113)、花淵武雄(T030411)、
新藤英雄(T060615)、星 猛夫(T060619)、
中鉢不二男(071015)、加藤文二(T071201)、
大平徳弘(T090423)、の諸氏が80歳以上でご活躍なさっておられますし、

女性会員では

奥井紀美子(T140103)さんがお元気でテニスライフ

たという結論が出そうですがはたしてそれだけの原因だけなのでしょうか。

もうすこし つっこんでデーターを分析してみますと違った形の実態像が浮かんでくるようです。平成2年において会員であった方々が現在においても会員でおいでになる この10年間の会員残留率は、男性会員で 42%、女性会員で 27% となっています。男性では半分以上、女性では三分の二以上の方々が転勤や体調不良あるいは自己都合で退会され、ほぼ同数の新会員が入会されております。

残留されている男性会員の方々は比較的高齢域の会員であり、転勤等による退会が少なかったことが原因の一つと推察され、データーもこの様子を示しております。しかし、女性会員の入会と退会の数が何故に多いのか、その原因を転勤等の物理的なものに見いだすのは無理があるようです。もう少し心情的な要素を付け加える必要があるようですが、コンピューターでは、入力されているデーター不足で解析不可能のようです。

これらの数値を総括してみると、この10年間に新

をエンジョイなさっておられることは、当連盟の誇りでもあり、特筆すべき事項でもあります。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※

J T A N E W S の中から

J T A NEWS Vol. 58 に、JTA ベテラン委員長 佐藤國三郎さんの「委員長としての抱負」および テニスと健康を考えるシリーズ(1)として「生涯スポーツとしてのテニス」が掲載されております。 前者の全文と後者の概要をお知らせいたします。

ベテラン委員会

委員長

佐藤國三郎



長寿社会の到来を迎えた世界各国においては、生涯を通じて健康的に暮らせる社会をいかにして建設するかがそれぞれの国民的課題であるといわれています。したがいまして、高齢者自身が積極的にこの長寿社会への参加に取り組み、生きがいを持って安心した生涯を送れる環境整備を、自らの手で行なうことが重要なこととなってまいりました。我が国におきましては、平成9年の国勢調査によりますと、35歳以上の人口はそうじんこう1億2670万人の55.98%、7080万人となっております。また、レジャー白書によりますと、余暇活動として一年に一回でもプレーを楽しんだことがあります15歳以上のいわゆるテニス爱好者者は、総人口の6.7%、約690万人と推察されます。

このようにテニスを楽しむ国民が多数存在し、サッカーとともに世界の二大メジャースポーツといわれています。テニスとしては、少なくともベテランプレーヤーがあらゆる機会を通じて、相互にその意志の疎通を図るとともに、国際的にも積極的に広く交流を図って、長寿社会の福祉と国際友好親善に努力せねばならないと考えています。

また生涯スポーツという観点からいいますと、若いときからテニスに親しんでいただくことをお奨めします。そして今までテニスに親しむ機会がなかったとか、仕事のために一時中断していたといった高齢者の方々も、自信をもってお奨めできるスポーツであります。テニスはあなたにとって、家族とともに一生満足しめるスポーツとなるでしょう。

また中国のスポーツ界には、龍頭龍尾という言葉があります。ベテランプレーヤーがしっかりしていると、ジュニアが育たないという自戒の言葉です。

当委員会としては、各地域協会、都道府県協会それぞれのベテラン委員会の方々と緊密な交流のもとに、ベテランプレーヤーの資質向上を図って、ジュニアプレーヤーの範となるよう心掛けたいと願っています。



1. 生涯スポーツとしての重要性

高齢化社会になりつつある中で、運動習慣をつけることが大切だといわれて、よく行われるスポーツ種目としては、ジョギング、さいくりんぐ、水泳ウォーキングなどが挙げられますが、球技種目で手軽に小人数で行うことのできるテニスもまた、最適なもの一つです。運動の意義は、健康のため、楽しむため、友達を増やすなどのいろいろな目的がありますが、運動することにより体力を維持増進し、結果的に健康になれるということでしょう。

2. 運動と寿命

運動をすると長生きできるか。1964年にアメリカの中高年者約40万人の運動習慣(運動しない、かるい運動、中程度の運動、激しい運動)の調査をし、その一年後の生死を追跡調査した結果からは、どの年齢層も運動強度が増すほど、明らかに、死亡率が低くなると報告されております。ハーバード大学の卒業生1万7千人を対象にした追跡調査では、定期的で適切な身体運動をしていれば、寿命が伸びるという結果が得られております。喫煙と活動量の組み合わせでは、ばかりをよくたしなみ、活動量の少ない人の死亡率が最も高いという結果は予想通りです。

3. 健康と運動および体力

運動抑制(運動不足)は高血圧、心疾患、糖尿病、肥満症などを併発し、健康をそこねます。一方、運動は体力の向上をもたらしますが、過剰の運動は免疫機能を低下させ、抵抗力を弱くしますので、健康維持という観点からは、「適切な運動」が望ましいことになります。

4. 中高年の健康のための運動

それが習慣となって楽しめる範囲で運動を行うということが基本条件です。

100 kcalのエネルギーを消費する運動所要時間の目安は、テニス(シングルス)で20分くらいだそうです。200~300 kcalを消費するような運動を行うのが良いとされており、テニス(シングルス)

であれば1時間 程度が適当です。

理想体重=(身長-100)×0.9 で、健康のための運動の頻度は週2~3回、時間帯は血圧や血液粘性を考えて午後が良いでしょう。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

* * 「国体」あ オ ニ オ レ * *

ご承知のように、「国民体育大会(国体)」は、第二次世界大戦に敗れて荒廃していた日本を、物心共に復興させるための手段の一つとして、昭和21年日本始まった國を上げてのスポーツ行事あります。原則として各都道府県もちまわりで開催(ときには複数県で共催)しており、昭和27年(1952年)第7回の国体は宮城県で開催されたことを覚えておいでの方もおいでのことでしょう。1988年第43回の京都大会から二順目にはいり、2001年第56回は宮城県での二回目の開催となります。

たちに関連のありますテニス競技は第3回福岡大会から採用されました。

競技種目は、成年男子、成年女子、少年男子、少年女子の四種目です。しかし、この開催種目も、先の宮城国体当時は、一般男子一部、一般男子二部、一般女子、高校男子、混合の五種目ありました。その後、一般男子一部二部を統合して一般男子とし、混合を廃して高校女子を新設し、四種目としました。そして、30回を機に、現在行われておりますような四種目の競技となりました。

しかし、21世紀から、すなわち、2001年の第56回宮城国体からは、成年男子のなかのベテラン競技(45歳以上のシングルスとダブルスの試合)が廃止されることになっております。私たち壮年連盟にとっては寂しい限りです。また、最近では、成年男女ともに、JOP上位の選手の出場が少なく、国体におけるテニス競技のレベルの低下も含めてその在り方に検討を要する時期であることは確かなようです。

競技方法は、成年男女、少年男女ともに、シングルス2試合、ダブルス1試合の合計3試合を行い、2試合勝てば勝利、という形式です。一回戦から決勝戦まで、全ての試合が8ゲームズ・プロセットマッチで行われます。S.C.U(ソロ・チアード・アン・ペイバー)とボール・バースン(B.P)およびスコアー・バースン(S.P)が全試合につきます。日程は、10月14日(日)から17日(水)の4日間です。

どの試合もトラブルがなく、進行に滞りが生じないよう、また、観客にとって試合の進捗状況および対

戦状況がよく理解出来るようにとの配慮をした結果だと思われます。しかし、1回戦から決勝戦まで160回の対抗戦(500試合)に、S.C.U,B.P および S.P がつくのですから、数多くの方々の協力無しには、大会の開催はありません。S.C.U には、C級以上の公認審判員の資格をもっている方々の協力、S.P および B.P には、一般、大学、高校でのテニス経験者の協力を必要とします。勿論、コートの上だけで大会の開催は出来ません。総務、庶務、進行、記録、報道、会場、成績集計、開会および閉会式式典、等などに携わる競技役員、補助員の数は想像を越えたものになります。ちなみに、平成11年、熊本で開催された第54回大会での関係者人数は、選手および監督が332名、競技役員が120名、S.C.Uが85名、S.Pが65名、B.Pが150名、競技会補助、式典関係、プラスバンド、合唱隊等が合計で約1000名となっております。使用するコート数や試合数、式典方法、会場の規模が同じではありませんので、それらの数には差が生じると思われますが、大変な数になることはお解りねがえると思われます。

県テニス協会では、関係するテニス団体や大学、高校に協力の要請を行うことになっており、当連盟にも近々連絡が入るものと思われますし、個々には、S.C.U 等についての協力要請がなされているようです。

国体テニス競技開催にあたり、開催前年度の全日本都市対抗テニス競技大会を国体のリハーサル大会にあてて、本大会がスムーズに開催出来るよう図られております。したがいまして、本年の7月21日より3日間、泉総合運動場コートを会場として、平成12年度全国都市対抗テニス競技大会が開催されます。競技方法は全国の予選を勝ち抜いた32の都市町村による勝ち抜き戦(一回戦敗者によるコンソレーションあり)により順位が決められます。競技種目は、国体種目とは異なり、一般男子の単複、一般女子の単複、男子45歳以上、男子55歳以上、女子45歳以上の複の合計7試合のうち4試合を勝ったチームが勝ちというルールです。競技方法および種目が異なるだけで、大会運営に関連した事柄は国体と全く同じ形で行われます。全国各地においての予選会が始まっており、出場都市町村および選手が間もなく決まるでしょう。開催までに3ヶ月の猶予しかありません。県テニス協会もその準備で多忙を極めているようです。

また、この両大会開催にあたり、人的な協力もさる

ことながら、主管のための費用（例えば　B. Pや
30年あるいは40年に一回の開催となります大会
です。わが壯年テニス連盟でも、出来得る範囲内で
協力していこうではありませんか。どのような仕事を、
どのような形で、何日間するのか、詳細について
の要請があり次第、郵便等でお知らせいたします。
よろしくお願ひいたします。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

S. Pの帽子やユニホーム）が大きく、皆さんのご
協力を、パンフレットに掲載する広告代としてお願
いしております。個人名、団体名、会社名いずれ
の形でもOKとのことです。広告協賛は、A4版
1/8が1万円、1/4が3万円、1/2が5万円だそ
うです。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

平成12年度宮城県壮年テニス連盟行事予定表

期	日	行	事	会	場(コート数)
4月21日(金)		WEEKDAY交歓会		宮城野原テニスコート(4)	
5月16日(火)		WEEKDAY交歓会		宮城野原テニスコート(4)	
5月20日(土)		混合ダブルス大会		泉運動場テニスコート(8)	
6月14日(水)		WEEKDAY交歓会		宮城野原テニスコート(4)	
6月22日(木)		WEEKDAY交歓会		宮城野原テニスコート(4)	
7月7日(金)		WEEKDAY交歓会		宮城野原テニスコート(4)	
7月16日(日)		フーフダブルス大会		泉運動場テニスコート(6)	
7月25日(火)		WEEKDAY交歓会		宮城野原テニスコート(4)	
8月10日(木)		WEEKDAY交歓会		宮城野原テニスコート(4)	
8月27日(日)		技量別ダブルス大会		泉運動場テニスコート(12)	
9月6日(水)		WEEKDAY交歓会		宮城野原テニスコート(4)	
9月19日(火)		WEEKDAY交歓会		宮城野原テニスコート(4)	
10月5日(火)		WEEKDAY交歓会		宮城野原テニスコート(4)	
10月14日(土)		年齢別ダブルス大会		泉運動場テニスコート(10)	
10月19日(木)		WEEKDAY交歓会		宮城野原テニスコート(4)	
11月3日(休)		創立15周年記念連盟祭り		泉運動場テニスコート(10)	
11月10日(金)		WEEKDAY交歓会		宮城野原テニスコート(4)	
12月2日(土)		平成12年度総会懇親会		未定	

* * 平成12年度 連盟行事 * *

先のお便りにもありましたように、本年度の連盟行事は上記の一覧通り開催されます。会員の皆さんご要望がありましたので、WEEKDAY交歓会の回数を増やしました。WEEKDAY交歓会は会場を宮城野原県営コートに限定し、午前9時より午後4時までを実施時間とし、参加希望者は、前もっての参加申し込みはしないで、当日都合の良い時間に参加することが出来るフレキシブルな開催方法をとっております。その他の行事につきましては、実施内容、申し込み方法等の詳細につきまして、その都度、お便りでお知らせいたします。12回にわたり実施されますWEEKDAY交歓会の全出席者には、皆勤賞、総会を含めた18回の全行事参加者には特別賞が用意しております。WEEKDAYの皆勤賞は、毎年、2~3名の該当者がおられますが、特別賞該当者は過去、14年間には一人もおられません。今年は、連盟創立15周年にあたりますが、ぜひ、特別賞をお取り下さるようご期待もうしあげ

ます。創立15周年行事としましては、11月3日に、記念行事を行う予定であります。その内容につきましては、運営委員会で誠意検討中ではありますが、会員の皆さんの中から、素晴らしい行事案が出されることも期待事項の一つであります。

一覧表にある行事の他に、5月21日に、ねんりんピック宮城県選手選考を兼ねた、宮城県マスターズ春季大会、9月には、対いわきVTCとの親善対抗戦、9月19、20日の両日、岩手県の太田スポーツセンターでは東北テニスマスターズ等、皆さん誰もが参加出来る大会が続きます。これらの大会につきましても、極力ご案内をさしあげますので、奮ってご参加下さい。

※ 編集発行 宮城県壮年テニス連盟運営委員会
事務局